令和７年１月７日
名古屋地方気象台

東海地方の天候（令和６年１２月）

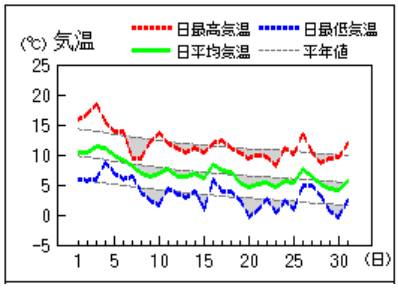
１　概況

冬型の気圧配置が続き低気圧の影響を受けにくかったため晴れた日が多くなりました。このため月降水量はかなり少なく、月間日照時間はかなり多くなりました。特に、月降水量は1946年の統計開始以降、12月として第１位タイの少雨となりました。岐阜県山間部では曇りや雪または雨の日が多くなりました。

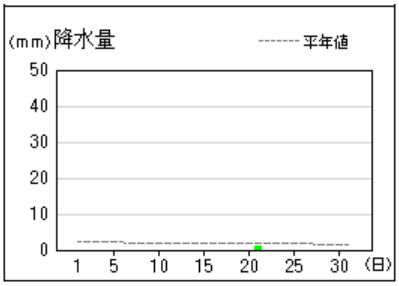
月平均気温は「平年並」、月降水量は「かなり少ない」、月間日照時間は「かなり多い」となりました。

旬ごとの概況	
上旬	冬型の気圧配置や高気圧に覆われて晴れた日が多くなりました。このため旬降水量はかなり少なく、旬間日照時間はかなり多くなりました。岐阜県山間部では曇りや雨または雪の日が多くなりました。 旬の平均気温は「平年並」、降水量は「かなり少ない」、日照時間は「かなり多い」となりました。
中旬	冬型の気圧配置が続き晴れた日が多くなったため、旬降水量はかなり少なく、旬間日照時間は多くなりました。また、寒気の影響を受けやすかったため旬平均気温は低くなりました。岐阜県山間部では曇りや雪または雨の日が多くなりました。 旬の平均気温は「低い」、降水量は「かなり少ない」、日照時間は「多い」となりました。
下旬	低気圧や前線が通過して曇りや雨の降った日もありましたが、冬型の気圧配置や高気圧に覆われて晴れた日が多くなりました。このため旬降水量は少なくなりました。岐阜県山間部では曇りや雪または雨の日が多くなりました。 旬の平均気温は「平年並」、降水量は「少ない」、日照時間は「平年並」となりました。

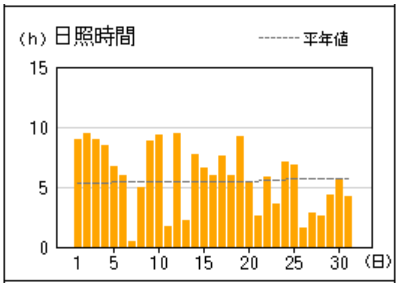
参考　時系列図（名古屋地方気象台）



最高・最低気温(太破線)、平均気温(太実線)と平年値(細破線)℃



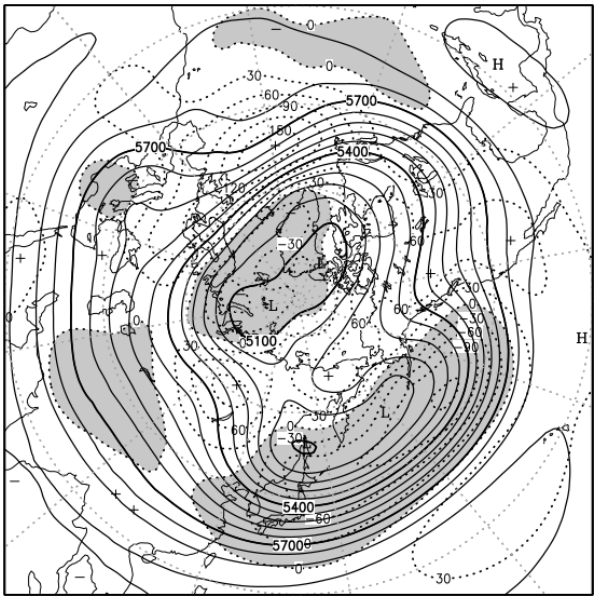
降水量と平年値(破線)mm



日照時間と平年値(破線)h

２　大気の流れの特徴

12月の500hPa天気図（高度・偏差）と解説



等値線間隔　実況（実線）60m、偏差（破線）30m、陰影域は負偏差

500hPa高度では、分裂した極渦の一部がオホーツク海からアリューシャン付近にありました。ユーラシア大陸北部では寒帯前線ジェット気流の蛇行が大きく、その一環として、バイカル湖付近で正偏差、日本付近から東側では広い範囲で負偏差となりました。亜熱帯ジェット気流は日本付近では平年よりやや南側を流れました。

これらのことから、北日本を中心に全国的に寒気の影響を受けやすくなりました。

３　各地の気象台・特別地域気象観測所の実況

地点名	平均気温(平年差)(℃)	階級	降水量(平年比)(mm)	(%)	階級	降水日数 ≧1mm	日照時間(平年比)(h)	(%)	階級	降雪深さ(平年値)(cm)	(cm)	階級	最深積雪(平年値)(cm)	(cm)	階級
静岡	9.3	(0.0)	○	0.0	(0)	−＊	0	253.7	(127)	＋＊	−	(0)		−	(−)	
浜松	8.3	(-0.5)	−	0.5	(1)	−＊	0	234.1	(117)	＋＊		( )			( )	
御前崎	8.9	(-0.5)	−	5.5	(7)	−＊	2	243.1	(124)	＋＊		( )			( )	
三島	8.3	(+0.1)	○	2.0	(3)	−＊	1	234.8	(131)	＋＊		( )			( )	
石廊崎	10.8	(0.0)	○	11.5	(16)	−＊	3	220.6	(121)	＋＊		( )			( )	
網代	9.8	(+0.2)	○	1.5	(2)	−＊	1	188.3	(132)	＋＊		( )			( )	
名古屋	7.0	(-0.2)	○	1.0	(2)	−＊	1	180.8	(106)	＋	−	(3)	−	−	(3)	−
伊良湖	8.6	(0.0)	○	0.5	(1)	−＊	0	199.3	(114)	＋		( )			( )	
岐阜	6.5	(-0.5)	−	13.5	(18)	−＊	4	150.1	(96)	○	−	(9)	−	−	(5)	−
高山	1.2	(-0.4)	−	62.5	(60)	−	15	56.1	(68)	−＊	43	(66)	○	9	(28)	−
津	8.1	(0.0)	○	1.0	(2)	−＊	0	201.8	(118)	＋＊	−	(1)	○	−	(0)	
上野	5.7	(0.0)	○	4.5	(9)	−＊	2	167.5	(124)	＋＊		( )			( )	
尾鷲	8.7	(-0.1)	○	0.0	(0)	−＊	0	198.5	(114)	＋＊		( )			( )	
四日市	6.5	(-0.1)	○	2.0	(3)	−＊	1	181.8	(120)	＋＊		( )			( )	
東海地方	----	(-0.1)	○	-----	(9)	−＊	--	-----	(115)	＋＊	--	(--)	--	--	(--)	--

注）1. 平年値は1991～2020年の資料から求めた。

2. 「階級」の記号の意味は以下のとおり。

＋:高い（多い）　○:平年並　−:低い（少ない）

各階級の区分値は、1991～2020年における30年間の観測値をもとに、これらが等しい割合で各階級に振り分けられる（各階級が10個ずつになる）ように決めた。また、値が1991～2020年の観測値の上位または下位10%に相当する場合には階級の「＋−」に＊を付加した。この場合には以下のように表現できる。

かなり高い（多い）　かなり低い（少ない）

また「降雪の深さ」と「最深積雪」の「階級」は平年値が「1cm」以上の場合のみ表示した。

3. 値の横に ）や ］がある場合は、月別値を求める際に使用したデータ（日別値）に欠測等が含まれていることを示す。）付きの値（準正常値）は通常のものと同様に扱うことができる。］付きの値（資料不足値）については、統計に用いる観測資料数が不足しているため、値の下に記載した統計日数（統計に用いた、品質が十分な日別値の数）を参考にするとともに、階級についても値と同様の品質であることに留意して使用されたい。なお、日別値がすべて欠測のため値が求められない場合は「×」とした。

４　令和６年（2024 年）１２月の順位更新表

※順位の更新はタイ記録も含んでいる。タイ記録は「=」で表す。

月降水量少ない方からの順位更新

順位	地点名	降水量 mm	平年比 %	これまでの最小 mm （西暦年）	開始年	平年値 mm
1	静岡	0.0 =	0	0.0 （2005）	1940	80.7
	尾鷲	0.0 =	0	0.0 （1988）	1938	121.3
2	名古屋	1.0 =	2	0.0 （1973）	1890	56.6
	上野	4.5	9	2.0 （1999）	1937	50.8
	津	1.0	2	0.5 （1973）	1889	47.2
	伊良湖	0.5 =	1	0.0 （1988）	1947	63.1
	三島	2.0 =	3	1.0 （1973）	1930	65.1
	四日市	2.0	3	0.0 （1973）	1966	58.5
3	浜松	0.5	1	0.0 （1988）	1882	62.7
	網代	1.5	2	0.5 （1988）	1937	66.3

月間日照時間多い方からの順位更新

順位	地点名	日照時間 h	平年比 %	これまでの最大 h （西暦年）	開始年	平年値 h
2	津	201.8	118	209.4 （1956）	1892	171.5
	静岡	253.7	127	256.8 （1995）	1940	200.5
	三島	234.8	131	244.2 （1995）	1930	179.4
	網代	188.3	132	197.1 （1995）	1937	142.8

参考資料　平年並の範囲（東海地方）

12月	平均気温平年差	降水量平年比	日照時間平年比
上旬	-0.2 ～ +0.8℃	56 ～ 112%	96 ～ 113%
中旬	-0.6 ～ +0.4℃	55 ～ 118%	94 ～ 108%
下旬	-0.3 ～ +0.5℃	40 ～ 111%	94 ～ 103%
月	-0.2 ～ +0.5℃	74 ～ 128%	99 ～ 103%

資料の解説

・当資料に掲載されている天候の特徴や統計値は、現時点で得られている資料を取りまとめた速報です。

・「低い（少ない）」「平年並」「高い（多い）」の階級は、1991～2020 年における 30 年間の観測値をもとに、これらが等しい割合で各階級に振り分けられる（各階級が 10 個ずつになる）ように決めています。また、値が 1991～2020 年の観測値の下位または上位 10%に相当する場合には、「かなり低い（少ない）」「かなり高い（多い）」と表現します。

・岐阜県の「山地」と「岐阜県山間部」について
岐阜県の天気予報では、標高500mより高い地域を「山地」、低い地域を「平地」として大雪警報や注意報、また降雪量の予想などを発表しています。一方、季節予報や週間天気予報では、冬季に東海地方の他の地域と比べて気候的に曇りや雪の日が多い、岐阜県飛騨地方の全域と美濃地方の山地を合わせた地域を「岐阜県山間部」と呼んでいます。